

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

比較表現における形容詞について

著者	波多野 満雄
著者別名	Hatano Mitsuo
雑誌名	白山英米文学
号	41
ページ	21-35
発行年	2016
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00007928/

比較表現における形容詞について

波多野 満 雄

はじめに

英語には比較表現と呼ばれるものがある。その代表的なものは同等比較・不等比較・最上級である。この三種類の比較のいずれにおいても、その構成要素として、「比較の主体」「比較の対象」「比較の内容」の三つの要素が必要であり、また比較の内容においては、原則として段階性を表す形容詞・副詞のみが用いられる点も共通している⁽¹⁾。しかし、同じ段階性を表す形容詞でも、例(1a)と(1b)のように使用される前提が違うもの、また同じ形容詞でも例(2a)と(2b)のように、表現によって表す意味が違ってしまふものなどがあり、段階性を表す形容詞の働きは一樣ではない。本稿の目的は比較表現において用いられる形容詞が、種々な種類の比較表現においてどのような意味の相違を生じさせるのかを統語的、意味的そして語用論的に考察することである。

(1) a. How old is he?

(彼は何歳ですか)

b. How young is he?

(彼はどれほど若いのですか)

(2) a. I'm not as young as I used to be. (BNC⁽²⁾)

(私はもう昔の私ほど若くない)

b. He's a year younger than Thomas but he was the same height. (BNC)

(彼はトーマスより一歳年下だが、背の高さは同じだ)

1. 段階性について

比較表現に用いられる形容詞はどんなものも全て可能というわけではない。可能なのはその語に段階性が認められるものだけである。段階的形容詞(gradable adjective)とは、意味的に程度の大小、つまり段階を問題にすることが出来る性質・状態を表す形容詞のことであり、(3a)の形容詞がその代表例である。例えばoldは、「古い」、「多少古い」、「大変古い」と、「古さ」の程度を表現することが出来るのである。一方、非段階的形容詞とは、語の表す性質

や状態が意味的に程度の段階が考えられない形容詞のことであり、(3b) の形容詞がその代表例である。例えば dead は「生か死か」という二極対立上の「死んでいる」状態を示しており、「死んでいる」状態の程度を問題にすることが出来ないのである。(cf. 今井ほか, 1978)

- (3) a. 段階的形容詞 : old, beautiful, big, difficult, excellent, smart, useful, young, etc.
b. 非段階的形容詞 : dead, alive, daily, German, linguistics, main, metallic, single, etc.

ある形容詞や副詞が段階的か否かを判定するには例 (4a-b) のようにその語が very や so などの強意詞で修飾できるか否かが有効である。いずれも程度が考えられる形容詞しか修飾できない語である。

- (4) a. Satellite data were very useful here. (BNC)
(衛星によるデータはここではとても役立っている)
b. No wonder you were so useful to the Countess. (BNC)
(あなたが伯爵夫人にとっても役立ったのも当然ですね)

しかし、ある語が比較内容として使用できるか否かは最終的には使用された文中での意味によるのである。例えば、原則段階の無い、二極対立的な意味を持つ語であっても例 (5a-b) および例 (6a-b) のように段階の意味を有する場合は比較の文に使用できる。

- (5) a. The campaign was as dead as a dodo. (BNC)
(そのキャンペーンは全くの時代遅れであった)
b. They're as alive as we are, these trees. (BNC)
(我々のように生き生きしているね、これらの木々は)
(6) a. Each club was deader than the last; ... (BNC)
(それぞれのクラブは最後のものより活気がなかった)
b. Frinton-on-Sea, in the Harwich constituency, is mocked as the deadest town in England. (BNC)
(フリントンは、ハーウィック選挙区にあるが、イングランドで最も活気のない町として嘲られている)

例 (5a) における *dead* と例 (5b) における *alive* は、二極対立的な意味である「死んでいる状態」と「生きている状態」を表しているのではなく、それぞれ「時代遅れである、有効でない」と「生き生きとした、活発な」という段階が考えられる意味を表しており、例 (6a-b) において、*deader* は「より活気のない」、*deadest* は「最も活気のない」という、やはり段階性を有する意味を表していると考えられる。

また、国名や色も本来、段階的意味を表さないが、例 (7a-b) のように段階的意味を表す場合は比較表現として用いることができる。

(7) a. Nothing, however, could be more American than the name and image of the New York Yankees. (BNC)

(しかしながら、ニューヨーク・ヤンキースの名前とイメージ以上にアメリカ的なものはない)

b. I never saw a man more white. (BNC)

(私はそれ以上に蒼白となった人を見たことがなかった)

2. 尺度形容詞と評価形容詞

比較表現には段階的形容詞が用いられるが、段階的意味を表す語はその特徴として、意味的に反対を示す語、いわゆる反意語と対をなすことが挙げられる。これはあることに関しての程度の高低によってそれぞれ語を割り当てるのが言語には普通のことだからである。例えば、*old-young*, *tall-short*, *beautiful-ugly*, *wise-fool* などである。一方、一括りに段階的形容詞といってもその意味・用法は一様ではなく、通常 (8) のように尺度形容詞 (*measure adjective*) と評価形容詞 (*evaluative adjective*) に分類される。以下両者における種々な相違について考察してゆく。

(8) 尺度形容詞 : *old, young, wide, narrow, big, small, long, short, high, low, etc.*

評価形容詞 : *beautiful, ugly, wise, fool, intelligent, stupid, attractive, repulsive, etc.*

2.1 有標・無標による相違

まず、尺度形容詞は様々な尺度、つまり年齢・大きさ・長さなどを表す意味を持っており、それらの程度・段階を尋ねる疑問文に用いられるが、その際、原則的に対をなす尺度形容詞において段階の高い方を表す語を用いる。例

例えば例 (9a-c) のように old-young, big-small, long-short の対では、それぞれ old, big, long を用い、young, small, short は用いない。しかし、例外的に例 (10a-c) のように young, small, short を用いる場合がある。その場合は、主語がそれぞれ young, small, short という前提があり、つまり、元々それぞれ、He is young. It is small. It is short. という前提があり、通常反意語で答えることはしないとされる。これらの現象は一般的に、尺度形容詞の反意語の対では尺度として大きな値を表す old, big, long が無標 (unmarked) であり、young, small, short が特別な意味を表す有標 (marked) であるとして説明される。(cf. Lyons, 1968 および Gnutzmann, 1975)

- (9) a. How old is he? — Very young./ Very old.
 b. How big is it? — Very small./ Very big.
 c. How long is it? — Very short./ Very long.
- (10) a. How young is he? — Very young./ *Very old.
 b. How small is it? — Very small./ *Very big.
 c. How short is it? — Very short./ *Very long.

一方評価形容詞の対では、how と共に用いられた場合、例 (11a-b)・(12a-b) のように、反意語のどちらの場合でも前提が存在し、通常反意語で答えることはしないとされる。従って、評価形容詞では有標/無標の区別はされない。

- (11) a. How beautiful is she? — Very beautiful./ *Very ugly.
 b. How ugly is she? — Very ugly./ *Very beautiful.
- (12) a. How intelligent is he? — Very intelligent./ *Very stupid.
 b. How stupid is he? — Very stupid./ *Very intelligent.

2.2 比較表現における相違

ここでは尺度形容詞と評価形容詞が比較表現で用いられるとどのような違いが生じるのかを見てゆく。例 (13a) のように無標の尺度形容詞が同等比較で用いられた場合、相対的意味となる。相対的意味とは、Teddy is old. の場合の old とは違い、teddy も I も「年を取っている」必要はなく、例えば両者とも5歳であってもよく、あくまで「同じ年である」ことを表している。一方、例 (14a) のように有標の形容詞が用いられた場合は絶対的意味となる。絶対的意味とは They are young. の場合の young と同じように「若い」ことを意味し、they,

Nicandra そして Lalage のいずれも「若い」ことを表している。同等比較の場合、上記のように尺度形容詞の有標・無標で意味が違って来るのに対して、不等比較・最上級で用いられた場合、例 (13b-c) および例 (14b-c) のように、有標・無標に関係なく、両方とも相対的意味となる。

- (13) a. This teddy is as old as I am. (BNC)
(このテディー・ベアは私と同年だ)
b. Her husband's much older than her. (BNC)
(彼女の夫は彼女よりはるかに年上だ)
c. A fifteen-year-old boy, the oldest of the nine, had been taken to a secure unit.
(BNC)
(15歳の少年が、9人の中では最年長なのだが、鑑別所へと移送されていた)
- (14) a. Then, they were as young as Nicandra and Lalage. (BNC)
(当時、彼らはニカンドラやララジーと同じ位の若さであった)
b. All his friends are younger than he is. (BNC)
(彼の友人は皆彼より年下だ)
c. Peter Kent was born here, the youngest of eleven children. (BNC)
(ピーター・ケントは7人兄弟の末っ子としてここで生まれた)

次に評価形容詞の場合を見てゆく、評価形容詞には元々有標・無標の区別はないが、例 (15a-c) のように反意語の対である beautiful-ugly の良い意味の方でも、例 (16a-c) のように反意語の対である intellectual-stupid の良くない意味の方でも、比較表現全てにおいて絶対的意味となる。

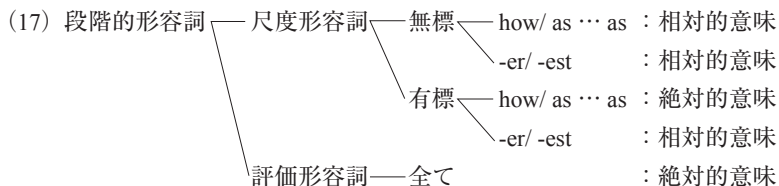
- (15) a. ... I've never seen a woman as beautiful as you. (BNC)
(あなたほど美しい人に会ったことはありません)
b. There's no flower more beautiful than a rose. (BNC)
(バラほど美しい花はない)
c. He is the most beautiful of us all. (BNC)
(彼は我々全員の中で最も美男子だ)
- (16) a. The poor were just as stupid as the rich: ... (BNC)
(貧乏人は金持ちと全く変わらず愚かだ)
b. He is thinner than Hess, he is stupider than Hess, and he thinks like a peasant.
(BNC)

(彼はヘスより痩せており、ヘスより愚かで、百姓の如く考える)

c. ... a goose is the most stupid bird there is, except for a duck. (BNC)

(ガチョウが鳥の中で最も愚かな鳥だ。アヒルがいなかったら。)

上記のように、どちらも段階性を表す尺度形容詞と評価形容詞であるが、有標・無標の別や、どの比較表現で用いられるかによってその意味が異なっている。以上で述べた段階的形容詞の意味をまとめたのが下記の(17)の図である。以下ではこのような現象がなぜ起こるのかについて考察してゆく。



2.3 尺度による相違

ここでは(17)の図に表した現象について考察してゆく。比較とは他の何者かと比べることであるから、当然比べる内容・基準が必要となる。比較表現においてはそれが as ... as 中の語句、-er, -est を付加された語句なのであり、段階的形容詞がその役割を担っていることになる。又、比較表現とは他者との比較なので、比較表現に用いられた段階的形容詞の意味は本来の絶対的意味を表すのではなく、あくまで相対的な意味を表すことになるはずである。では何故(17)のような違いが生じるのか。それはそれぞれの形容詞を用いる際に話し手が持つ尺度の世界の違いであると思われる。以下ではこの話し手が持つ尺度の世界に特に焦点を当てて考察してゆく。

尺度形容詞・評価形容詞と二つに分類された形容詞のいずれも、例(9)-(12)のように how 疑問詞と共に用いられた場合を除いて、比較表現で用いられなければ有標も無標も無く、絶対的意味と相対的意味という区別も無い。つまり、どちらも語本来の意味(絶対的意味)を表す。例えば例(18a-b)のような尺度形容詞を比較表現以外で用いた場合、話し手の頭の中にある尺度の世界は(19)の図のようなものであると言える。Old と young が対立した対の世界である。また、例(20a-b)のように評価形容詞を用いた場合も同様であり、(21)の図のような尺度の世界があると言える。

- (18) a. She is old and she is helpless. (BNC)
 (彼女は年を取っており、無力である)
 b. 'Greta Ross is young,' I thought. (BNC)
 (「グリータ・ロス若いは」と私は思った)



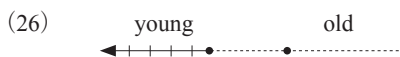
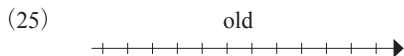
- (20) a. Small is beautiful. (BNC)
 (小さいものは美しい)
 b. He was ugly, there was no denying it. (BNC)
 (彼は醜く、それを否定することは出来ない)



2.3.1 尺度形容詞の尺度

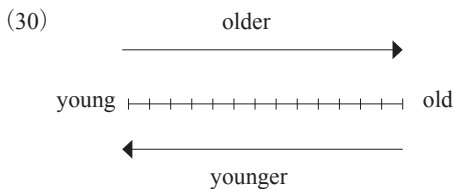
ここでは例 (22a-b) のように尺度形容詞を疑問詞 how と共に用いた場合、および例 (23a-b) のように同等比較で用いられた場合の意味の相違について考えてみる。まずは無標の形容詞の場合であるが、この場合の無標の old の場合は「年を取った、年老いた」という意味ではなく、「～歳の」という意味を表していると言える。(25) の図のように、この世界では old-young の対立世界ではなく、年齢という基準 (= 目盛り) を用いているのである。例 (24) のように尺度形容詞は数詞で修飾することが出来るので、目盛りが意識されることは明らかである⁽³⁾。既述のように、対になる尺度形容詞において段階の高い方を表す形容詞がこの基準 (= 目盛り) を表していると考えられる。同等比較の場合、比較の主体と比較の対象が同一目盛り上にあるということを表すことになる。一方、有標の young の場合、既述のように前提が存在する。例 (22b) においては、He is young. が前提となっており、例 (23b) においては、They, Nicandra and Lalage were young. が前提となる。すなわち問題になっているのは young の領域のみであり、(26) の図のような尺度の世界が想像される。同等比較の場合、old のような無標の場合と同じく、比較の主体と比較の対象が同一目盛り上にあることになるが、それはあくまで young の領域内にあることになる。以上のように、無標の場合、年齢のすべての領域を念頭に置いているので、返答としては young も old もあり得るのに対し、有標の場合、young の領域のみが問題なので、返答としては young のみしか認められないのである。

- (22) a. How old is he? — Very young./ Very old. (=9a)
 b. How young is he? — Very young./ *Very old. (=10a)
- (23) a. This teddy is as old as I am. (=13a)
 b. Then, they were as young as Nicandra and Lalage. (=14a)
- (24) I am now twenty-five years old. (BNC)
 (私は今ではもう 25 歳だ)



次に尺度形容詞が不等比較および最上級表現において用いられた例 (27a-b)・(28a-b) のような場合について考察してゆく。この場合に話し手が考えている尺度の世界は (30) の図のようなものと考えられる。重要な点は、反意概念である old と young が一つの尺度上で結びついているということである。両者が一つの尺度上にあることは、同じく尺度形容詞で対となる反意語である big-small をそれぞれ用いた例 (29a) と例 (29b) がお互いを含意していることから明らかである。ある形容詞を用いた文と同じ意味内容をその形容詞の反意語で表せるということは (30) の尺度のように両者が結びついた世界を、両者が一体となった尺度の存在を想定しなければ成り立たないと言える。尺度形容詞で表された比較の主体と比較の対象の関係はあくまで相対的なものであり、例 (27a) の she や例 (27b) の boy は「年取っている」必要はないので非文とはならず、例 (28a) の his friends や例 (28b) の Peter Kent が「若い」必要もない。(cf. Lyons, 1968)

- (27) a. She must be seventeen now; she was some months older than him. (=13b)
 b. A fifteen-year-old boy, the oldest of the nine, had been taken to a secure unit. (=13c)
- (28) a. All his friends are younger than he is. (=14b)
 b. Peter Kent was born here, the youngest of eleven children. (=14c)
- (29) a. Our house is bigger than yours.
 (我々の家は君の家より大きい)
 b. Your house is smaller than ours. (以上 2 例、Lyons, 1968: 464)
 (君の家は我々の家より小さい)



2.3.2 評価形容詞の尺度

ここでは例 (31a-b) のように評価形容詞を疑問詞 how と共に用いた場合、そして、例 (32a-c)・(33a-c) のように様々な比較表現において用いられた場合について考えてみる。評価形容詞の場合、尺度形容詞と違い、有標・無標の区別がなく、比較表現の相違による意味的違いも生じない。従って尺度も同一のものが想定される。評価形容詞の場合、尺度形容詞の場合と大きく異なる点は、(36) の図の intelligent と stupid のように、対となっている対立概念が同一の尺度として表せないことである。つまり、尺度形容詞の場合は、(30) の図のように、対立概念である old と young が一体となり、一つの尺度上で程度の高低を表すことが出来るが、評価基準の場合は、それぞれは別の尺度としか見なされないということである。対の反意語が同一の尺度上になく別々なので、あくまで個別の尺度上での比較になっているということなのである。このことは例 (34a-b) と例 (35a-b) において、a と b がそれぞれを含意していることから明らかである。つまり、ある形容詞で表現した同じ内容を表すときに反意語を用いることが出来ず、more や less などを用いることになるということは、例 (29) の尺度形容詞の場合と異なり、一体となった同一の尺度を形成していないということを意味するのである。従って、例 (34a-b) のように、intelligent の場合であれば対の stupid と一体になった尺度ではなく、あくまで intelligent の領域のみが問題になっているのである。そして、比較表現のいずれにおいても、比較の主体も比較の対象も「知的である」ことが前提になってしまうのである。(cf. 安井ほか, 1976)

(31) a. How intelligent is he? — Very intelligent./ *Very stupid. (=12a)

b. How stupid is he? — Very stupid./ *Very intelligent. (=12b)

(32) a. He's as intelligent as Jim was, has a sense of humour and irony, and he's one hell of a singer. (BNC)

(彼はジムと同じほど知的であり、ユーモアと皮肉のセンスがあり、そして歌もものすごくうまい)

b. Some scientists believe that these marine mammals may be more intelligent than human beings. (BNC)

(科学者の中にはこれらの海洋哺乳動物は人間より知的であるかもしれないと信じている者もいる)

c. We two are the most intelligent people here, you know. (BNC)

(我々二人はここにいる人たちの中で最も頭がいいだろう)

(33) a. The poor were just as stupid as the rich: ... (=16a)

b. He is thinner than Hess, he is stupider than Hess, and he thinks like a peasant. (=16b)

c. ...he was satisfied that even the most stupid of us had understood it. (BNC)

(我々の中の最も頭の悪い者でさえそれを理解したことに彼は満足した)

(34) a. John is more intelligent than Bill.

(ジョンはビルよりさらに知的である)

b. Bill is less intelligent than John.

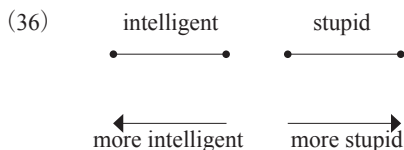
(ビルはジョンほどには知的ではない)

(35) a. Bill is more stupid than John.

(ビルはジョンよりさらに愚かである)

b. John is less stupid than Bill. (以上 4 例、安井ほか, 1976: 267)

(ジョンはビルほどには愚かではない)



3. 例外的事象について

2章では尺度形容詞と評価形容詞の用法の違いの原則を考察してきたが、この章ではこの原則に当てはまらない例外的な事象について考察する。

3.1 相対的意味が絶対的意味に

尺度形容詞には how 疑問文や同等比較における有標・無標の区別があり、例 (37) のように、old-young の反意語の対では old が無標、young が有標である理由を考察してきた。前章では両者を対等の如く扱ってきたが、how 疑問文においては無標の old を使う場面が圧倒的であり、young は例外的な場面である。実際、両者は例 (37a-b) のようにアクセントの位置が違っており、無標

の例 (37a) では old に、有標の (37b) では how にそれぞれアクセントがくる。例 (37a) の場合の old は既述のように old は「年を取った」の意味ではなく、「～歳の」を表しており、質問の焦点が「年齢」にあることになる。一方、有標の例 (37b) の場合、既に「若い」ことは前提となっているので、その「(若さの)程度」が焦点になるため how にアクセントがくると思われる。以上の考えを推し進めてゆくと、既に「年を取っている」ことが前提となっている状況で用いられ、how にアクセントがくる例 (38) のような場合も当然考えられる。また、例 (39a-c) のように、比較表現においても原則と違い有標として用いられ、絶対的意味を表していると思われるものもある。特に (39b) の as old as the hills のように決まり文句の場合や、(39c) の 600 years のように比較の対象が数詞の場合は前提が決まってしまうので、有標表現として「年取った、古い」という絶対的意味になると考えられる⁽⁴⁾。このような場合に問題となるのは、形容詞の表す絶対的意味の領域のみなので、例 (40a-b) では基本的に無標であるはずの形容詞、old と high に有標の形容詞に用いられる less が使われている。

- (37) a. How óld is he? — Very young./ Very old. (=9a)
 b. Hów young is he? — Very young./ *Very old. (=10a)
- (38) ‘How old is the Taj Mahal?’ — ‘It was built about 1640, I think’
 (*Collins Cobuild English Usage for Learners*^{6th})
 (タージマハルはどれだけ古いの。— 1640年に建てられたと思うよ。)
- (39) a. The myth of the entrepreneurial hero is as old as America… (BNC)
 (理想的企業家というものに関する神話はアメリカそのものと同じくらい古くからある。)
- b. A mother can seem both ageless and as old as the hills to her child. (BNC)
 (母親はその子には年を取らないようにも、とてつもなく年を取っているようにも見えることがある。)
- c. It has some 20,000 prints and drawings of a topographical nature, and about 3000 broadsheets, some as old as 600 years. (BNC)
 (そこには2万にのぼる印刷や手書きの地形図、それに3,000もの大判印刷物があり、中には600年も昔のものもある)
- (40) a. With his experience of an old university and a less old university, with two different systems, … (BNC)
 (それぞれ異なった制度を持つ、ある歴史の古い大学と歴史の古さの点で

それよる劣る大学、その両方での経験により・・・)

b. The rate of inflation would be less high if Britain was already subject to the discipline of the ERM. (BNC)

(インフレの程度はもし英国がすでに為替相場メカニズムの支配下にあったならばもう少しは低いものになっていたでしょう)

3.2 絶対的意味が相対的意味に

次に評価形容詞についての例外的事例を考察する。評価形容詞はどの比較表現においても「絶対的意味」を持っているということになっているが、実際にはそうとは言えないものもある。例えば、例 (41a-c) において、これまでの原則に従えば、絶対的意味を表すはずなので、(41a) では His backside is beautiful. が前提として、例 (41b) では、Young people are wise. が前提として、最上級の例 (41c) でも、省略部分を勘案すれば、All birds in the world are stupid. が前提としてそれぞれ成り立つはずであるが、そうとは考えにくい。いずれも「相対的意味」として用いられていると考えるのが妥当であろう。この絶対的意味の相対化を裏付けるのが例 (42) である。この文では相対的意味を表すことになっている old と絶対的意味を表すことになっている wise が等位の補語として用いられており、比較の対象も共通の them である。等位の関係から言って、相対的意味と絶対的意味に分かれて用いられているとは考えにくく、どちらか一方にまとまっていると思われ、文脈から両方相対的意味として用いられていると考えられる。

(41) a. 'Man's face,' he said, 'is more beautiful than his backside.' (BNC)

(「男の顔なんて」と彼。「せいぜい後ろ側よりはましだという程度さ」)

b. Old people are wiser than young people. (BNC)

(年寄りとは若者より賢い)

c. They must be the most stupid birds in the world. (BNC)

(それらは世界で最も愚かな鳥に違いない)

(42) Their leader is the oldest and wisest of them. (BNC)

(彼らの指導者は彼らの中で最も年長で、最も賢い)

以上のように尺度形容詞と評価形容詞において「絶対的意味」と「相対的意味」の分布は固定したものではなく、あくまで原則であって、状況によって変わり得るものだということが分かる。

おわりに

比較表現における形容詞についての考察の結果をまとめると次のようになる。

- ・ 比較表現に用いられる形容詞は段階性を持つ形容詞に限られるが、その段階的形容詞も尺度形容詞と評価形容詞に分類できる。
- ・ 尺度形容詞はさらに有標と無標に分けられ、how 疑問文や同等比較での両者の意味は異なる。有標の形容詞は「絶対的意味」を表し、無標の形容詞は「相対的意味」を表す。
- ・ 尺度形容詞が不等比較や最上級で用いられた場合、有標・無標に関係なく「相対的意味」を表す。
- ・ 評価形容詞には有標・無標の区別はなく、how 疑問文および全ての比較表現において「絶対的意味」を表す。
- ・ How 疑問文や比較表現において、尺度形容詞と評価形容詞で意味や用法が異なるのは話し手の持つ尺度の世界が異なるからである。
- ・ 尺度形容詞と評価形容詞についての以上の法則はあくまで原則であって、使用される状況次第で「絶対的意味」と「相対的意味」は変わり得る。

NOTE

- (1) 段階性は形容詞や副詞のほかにも下記に示すように名詞や動詞にも存在するが、名詞が比較の内容を示すのは例 a-b のように数量詞の場合に限られる。又、動詞については、例 c のように分詞として形容詞化していると考えられる。それは love が過去分詞となって very で修飾できていることから伺える。

a. The preferences could include as many or as few of the candidates as the voter wished.

(BNC)

(その優先順位をつける投票のやり方だと候補者の内で投票者の好みの数だけ、多くも少なくとも、選ぶことが出来るだろう)

b. Our aim is to give all of you as much fun as you can take for as little of your hard-earned cash as possible. (BNC)

(我々の目的はあなた方全員にあなた方が苦勞して稼いだ現金を出るだけ使わずに手に入れられる限り多くの楽しみを与えることです)

c. 'I was very loved as a child,' says Koons. (BNC)

(「私は子供の頃とても愛されていました」とクーンズ)

d. ... he was not as loved as he once had been. (BNC)

(彼はかつて程愛されてはいなかった)

- (2) British National Corpus より採取した例文。本稿の例文の多くが BNC からのものである。
- (3) 下記の例 a-b のように尺度形容詞は比較表現においても数詞で修飾することが出来る。例 c は old ではなく young が数詞で修飾されており、「まだ若い」という気持ちが込められている。
- a. Mr Boldwood is sixteen years older than you. (BNC)
(ボールドウッド氏はあなたより 16 歳年長です)
- b. In her late thirties, she was two or three years younger than her step-son. (BNC)
(30 代後半の彼女は自分の継子より 2、3 歳若い)
- c. HOLLYWOOD'S most famous musical Singin' In The Rain is 40 years young. (BNC)
(ハリウッドで最も有名なミュージカルである「雨に唄えば」はまだ出来て 40 年だ)
- (4) 下記の例のように as young as の後に数詞が来る場合もある。その場合も当然右標になり、「若い」ことが含意される。
- a. Children as young as six have been tortured. (BNC)
(まだ 6 歳にしかない子供たちが拷問されてきたのです)
- b. They were not very old, perhaps as young as four or five. (BNC)
(彼らはまだ年端もゆかない、たぶん 4 歳か 5 歳にしかなくなっていなかった)

REFERENCES

- Ando, Sadao. (安藤貞雄) 2005. 『現代英文法講義』東京：開拓社。
- Bolinger, D. 1967. "Adjectives in English: attribution and predication." *Lingua* 18, pp.1-34.
- Bolinger, D. 1972. *Degree Words*. The Hague: Mouton.
- Gnutzmann, C., R. Ilson and J. Webster. 1973. "Comparative Constructions in Contemporary English," *E.S.* 54, pp. 417-438.
- Gnutzmann, C. 1975. "Some Aspects of Grading." *E.S.* 56. pp. 421-33.
- Imai, K. (今井邦彦) and H. Nakajima. (中島平三) 1978. 『文Ⅱ』現代の英文法 5. 東京：研究社。
- Ljung, M. 1974. "Some Remarks on Antonymy." *Lg.* 50 pp.74-88.
- Lyons, J. 1968. *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Lyons, J. 1977. *Semantics* 2 vols. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Saito, T. (斎藤武生) and H. Suzuki (鈴木英一) 1984. 『冠詞・形容詞・副詞』講座学校英

文法の基礎 3. 東京：研究社 .

Sapir, E. 1968. "Grading: A Study of Semantics." *Selected Writings of Edward Sapir in Language, Culture and Personality*. ed. by G. Mandelbaum, 1968. Berkley, Calif.: Univ. of California Press.

Yasui, M. (安井稔) S. Akiyama. (秋山怜) and M. Nakamura. (中村捷) 1976. 『形容詞』
現代の英文法 7. 東京：研究社 .